

# IPv4アドレス枯渇に向けた レジストリ側の対応についての一考察

---

2006.12.7

インテック・ネットコア

荒野高志

- 残り **55** x /8
  - 001-002, 005, 007, 023, 027, 031, 036-037, 039, 042, 049-050, 092-95, 100-120, 173-187, 197, 223
  - 参考:使えないもの
    - 000, 127, 240-255
- ここ数年の使用量 **10** x /8 /年
  - 2004 **9** x /8
    - 058-059(APNIC), 070-072(ARIN), 085-088(RIPE),
  - 2005 **13** x /8
    - 041(Afrinic), 073-076(ARIN), 089-091(RIPE), 124-126(APNIC), 189-190(LACNIC)
  - 2006 **10** x /8
    - 077-079(RIPE), 096-099(ARIN), 121-123(APNIC)
- あと5.5年程度で枯渇??

- 資源を管理する責任ある立場として考える
- 何の予告もなく、枯渇時翌日から割振り停止ということができるか？
- No 予告・勧告などを含めたなんらかの段階的なプロセスが必要
- すべて割振りしきってしまうのがよいか？
- たぶんNo どのくらい残しておくかは検討要
- 残存基準量に至るまでのルールと、残存基準量を切ったときのルール(「戒厳令」ルール)の2つが必要
- 戒厳令発令と想定される2年前には、IPv6アドレス利用を推奨することが必要なのでは？
- たぶんYes 議論要
- ただしレジストリとしてISPのサービスについての強制はしない

# 想定シナリオの例

